

令和元年度 長野県下伊那農業高等学校 学校評価表

評価項目	評価の観点	評価
農業教育を充実させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 農業の必要性や素晴らしさを生徒に伝えることができたか。 「グローバル・アグリハイスクール宣言」や「長野県における新たな農業教育の方向性について(提言)」を実現するために、新たな教育実践ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の授業だけでなく、地域をフィールドとした活動をとおして、地域を支える産業としての「農業」、地域内外の人的交流を図り関係人口を増やすための「農業」、人間の生命活動を支える「農業」、景観を守るなど自然環境を支える「農業」について考えさせることができた。 世界共通の持続可能な開発目標であるSDGsを意識した授業を展開することで、持続可能な農業を促進するためには何が必要で、どのような行動をとることができるか考えるきっかけをつくることができた。
資格取得を充実するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒一人ひとりが二種類以上の資格取得に取り組むことができるように指導することができたか。 講習会や補習を充実させ、合格率8割を目指すと共に、生徒にとって満足いく成果が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格の内容やメリットについて様々な場面で生徒に話をし、授業中や放課後等の補習を通して、資格を取得するという雰囲気作りができたと考える。今後も、生徒が積極的に資格試験に挑戦できる環境づくりや指導を継続していく必要がある。 合格率は資格により異なるが、8割を超える合格率の資格もあり、資格取得に意欲的に挑戦する生徒の姿が見られた。しかし、難易度の高い資格では合格率が低い資格もあり、不合格者に対して再挑戦する気持ちにさせる指導や、合格率を上げるための指導改善が課題として挙げられる。
学習意欲を向上させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、授業内容を工夫し実践することができたか。 生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。また、理解できない生徒に対して事後指導がしっかりできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目では外部講師の活用や校外実習などを積極的に取り入れた授業を行うことができた。 各教室にICT機器が整備され、多くの授業で活用が見られた。 「授業評価」の評価結果を踏まえ、ICT機器等を利用するなど、独自の教材を作成するなど分かりやすい授業への実践や取り組みが進んでいる。 検定前の補習に加え、3者面談中に希望者に対し補習を行ったり、放課後に個別指導を行ったりした。
進路希望を実現させるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合った計画的指導ができたか。 進路が多様化する生徒に対し情報提供が十分かつ的確にできたか。 進学希望者に対する指導・補習が十分できたか。 生徒が希望する進路を実現することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通して作成した学年毎の進路指導計画に基づいて指導を行ってきた。3年生にはガイダンスおよび個別指導を、1・2年生には実例をもとに本校の強みと弱みを意識してガイダンスを実施した。 3年生には『進路アクセス』を配布し、進路ガイダンス・講話や地区懇談会・保護者懇談会など、その都度資料を配布し、情報提供することができた。また、大学入試改革に伴う急な変更などにも丁寧に対応し、説明を行った。 今年度は国公立大学希望者がいかなかったが、特に看護系受験・センター試験等に向けて個別指導で対応した。来年度の大学入試改革の行方が不透明ではあるが、対策を検討していきたい。 今年度は入試制度変更を来年に控えた受験生の動向に大きな変化があり、公募制推薦による大学進学者(特に医療系)は苦戦を強いられた。また、公務員希望者が例年より多く、警察・消防では希望が叶わなかったが、それぞれの生徒が納得した進路先を決定することができた。
地域を理解し、地域との連携を深めるための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に参加し、活動した取り組みであったか。 地域の文化を取り入れた内容の活動を行い、地域文化を理解させることができたか。 実施した取り組みが、相手や地域の理解と評価を得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科毎の授業や班活動において、地域の連携を深めるための活動が例年以上に多数実施され、生徒も意欲的・積極的に参加した。 地域連携活動として、援農活動・農村景観維持活動・学輪IIDA・耕作放棄地解消活動(そばや小麦の栽培とその利用)・郷土料理継承活動(ジビエレストランや久堅御膳)・企業と連携した商品開発(シードル、お菓子やお茶、調味料)など地域文化を理解させながら新たな取り組みにも挑戦した。 これらの取り組みは、報道機関等で取り上げられる機会も多く、地域からも一定の評価を得ている。
基本的生活習慣を確立するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「身だしなみ」をきちんとする指導の実践ができたか。 問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。 集会の時は迅速に集合・整列し、整然とした集会を実施することができたか。 気持ちよい挨拶を習慣づけることができたか。 校内外の清掃活動を通して、ゴミの分別を徹底させ、リサイクルの必要性について認識させることができたか。 時間のけじめをつけさせ、休み時間の有効活用によるスムーズな授業開始や遅刻をなくす指導ができたか。 いじめを許さない学校作りを進め、生徒が発する小さなサインを見逃すことのない指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式、各試験中などで複数の職員目で確認する検査を実施して生徒の意識向上に努めてきた。概ね正しく制服の着用はできたと思われる。 昨年と同様に校内外の巡視を実施。問題行動(反省指導)については例年に比べて少なかった。 集会時の整列の仕方にはクラスごと違いを感じる場面もあったが概ね良好であった。 生活委員会中心のあいさつ運動週間を実施し、週間中は挨拶も徹底できたが日頃の生活の中で常に気持ちの良い挨拶を心がける指導とまでにならなかった。 清掃については美化委員会を中心に校内の美化はもちろん分別してのごみ処理等美化意識を高めることができた。 朝の遅刻、授業への遅刻等行動の先読みができない生徒が増えてきている。けじめをつけた生活態度や今やらなければいけないことなど一人一人が自覚をもって行動できる指導が必要であった。 「いじめ防止等の基本的な方針」に基づき対応してきた。小さなトラブルに回りが早く気が付き、気が付いたことを皆で共有しながら、どんな小さなトラブルでもいじめ等に発展させないような周りの見守りや職員間の連絡や報告が重要と感じる。
課外活動を充実するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が課外活動に積極的に参加し、活動することができたか。 個々の生徒が目標とする成果をあげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの班活動で県大会に進むなど大きな成果が見られた。果樹班のプロジェクト発表が3年連続の農業クラブ全国大会出場を果たし、アグリ研畜産班のプロジェクト発表は北信越大会に出場した。陸上班では宮澤さんが北信越に出場、剣道班は男女とも県大会出場。他のクラブも所属している生徒は熱心に活動している。吹奏楽も地域からの要請のボランティア演奏にも出かけた。 運動班、文芸班、特別班、専門班のどれかに全員加入となっているが、より多くの生徒が班活動に積極的に参加することが望ましい。
安全教育を推進するための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育に対する研修の機会を設け、それに参加することができたか。 あらゆる場面で、生徒の安全を意識した教育活動を実践することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員向けの交通安全研修や生徒向けの交通安全講話の開催、HRでの交通マナーへの呼びかけ、二輪車協会によるバイク点検の実施等を行った。大きな交通事故はなかったが、小さな交通事故は例年並みにあった。交通マナーに対する呼びかけを継続していく必要がある。